

# 2021年度 認定NPO法人 やまほうし 事業計画

## 1. 今年度の2つの緊急課題

変異型ウイルスの急速な拡大とコロナワクチン接種の立ち遅れにより、新型コロナの感染拡大の終息の目途が立っていない中で、新年度を迎えました。私たちは、2つの緊急課題に同時に対応していかねばなりません。

### 第1の課題は、利用者・職員・地域住民の「命と健康をどう守るのか」です。

昨年度は、「職場の新型コロナ禍のクラスター化防止」に全力を挙げてきました。今年度は引き続き「日常の体調管理の徹底」とともに、「三密解消に向けた職場環境の改善」が急務となっています。さらに「重篤でも入院先がない医療崩壊」の危機が懸念されている状況下では、感染防止のために「新型コロナワクチン接種への適切な対応」を行うことが求められています。ワクチン接種を打つ、打たないは個人の判断とされていますが、重度の障害を持ち、自己判断が困難な方への丁寧な配慮をおこなうこととします。

ア、接種前に「かかりつけ医への相談」「日々の体調管理の徹底」「既往歴などの予診票・同意書への記入」「当日や翌日は安静にできる日程を組む」

イ、接種当日は、「検温等で体調確認、体調不良なら延期」「接種券と本人確認書類、予診票を持参」「お薬手帳や薬剤情報提供書の持参」「すぐ肩を出せる服を着る」

ウ、接種後は「副反応に備え、会場に15～30分とどまる」「発熱や頭痛などが強くでたら、医療機関を受診」することが、推奨されていますので留意しましょう。利用者・家族への丁寧な説明を行うこととします。

エ、コロナ禍へ対応だけでなく、食品衛生法の改正を機に求められている「職場の食品衛生管理」の徹底を図るとともに、「商品開発プロジェクト」を立ち上げ、「免疫力のアップ」につながる「健康食」の確保・提供に努めます。また、文化・スポーツ活動への参加の機会やプログラムの開発に取り組みます。

### 第2の課題は、コロナ禍での規制の直撃を受けて廃業が相次ぐ中で、「事業所の安定的な事業執行体制の整備」と「魅力ある新たな事業体制の構築をどう築いていくか」です。

新型コロナウイルス関連倒産は、4月末までに1400件を突破し、解雇・雇止めも10万人を超え、雇用関係の悪化は深刻化しています。とりわけ、飲食業界の苦境は鮮明で、福祉業界も「労働環境の悪化と人材確保に苦慮」しています。

ア、私たちの同僚にも、心身の不調を訴え、療養生活を余儀なくされている方がおられます。メンタルヘルスも含めての「共に働く仲間の健康の維持・増進」に努めます。

イ、具体的には、「慢性的な超過勤務の解消」と「正規・契約・非常勤の職務の適正な役割分業と責任体制」の整備が急務です。事業所の月間・週間プログラムと個別の活動プログラムとの整合性をもたせ定時的な見直しを図っていきます。その際、スタッフが過重な負担に苦しまないよう職場環境の整備に留意して取り組みます。

ウ、多面化し複雑化する援助ニーズに対応するためにも、法人内はもちろん、関連法人・団体とのコラボレーション＝「分業と協業」を大胆にトライしていきます。そのことで、土曜開所日以外の休祝日や連休時の、平常できない地域での活動への参加の機会づくりを進めていくことが可能となります。具体的には「ふれあいサロン・クラブ」（仮称）の企画検討を行います。

エ、法人の経営基盤の安定化を図るとともに、「次世代を担う経営層」の確保・育成に努めます。

## 2. コロナ禍の逆風を撥ね返し、法人の基本的な事業目標を堅持し、事業の発展をめざします。

2017年度からやまぼうしは、2つの基本的事業目標を掲げての事業を展開してきました。

今年度は、それらをより拡充し、「多文化共生社会での社会的包摂の推進」を目指します。

### ① 共に生き生きと活動し、働くことのできる支援と暮らしの場の創造をめざします。

(障害者と支援者の枠を超えた ディーセントワークの実現)

利用者と職員が「楽しい」「やりたい」「できた」など、満足感や達成感を得ることが出来る作業(活動)を行える活動の場づくりに取り組みます。これまで開発してきた地域に開かれた「コミュニティカフェ事業」を維持・継続するとともに、より創造的な地域活動を展開し「多様な働き方」の実現を目指していきます。それにより、一人一人の障害特性・個性を大切に、利用者の通所率の改善や長期引きこもりだった人の受け入を進める場づくりが期待されます。そうした、従来の福祉制度の枠内にとどまらない、事業創造が求められていますが、法人創設時は重要な役割を果たしていた「やまぼうしサポーター」の復活と新たな再構築を検討していきます。「こども食堂」や各地の「地域活性化事業」などの先進的な取組みに学ぶ機会を大切にしていきます。

### ② 地域での自立した暮らしができる生活の支援(共生型事業拠点の創出)

おちかわ屋創業期以来 通所されてきている方々の高齢化・重度化が進行してきています。70歳を超えたひとの安定した地域生活の継続をどう保障していくのが問われてきています。利用者家族に依存した暮らしから脱却し、地域の人々との多様な相互の支え合いの関係づくりを確かなものとしていかなばなりません。

コロナ禍の直撃を受けている中で、改めて基本的事業目標を堅持し、具体化することが求められています。今年度は、「おちかわ屋」と「ふれあいの森カフェ」は多機能型事業所として一体的に運営するとともに、関連団体・法人との多面的な協働関係づくりにチャレンジしていきます。他の事業所でも、それぞれの事業所特性を生かした事業展開に取り組みます。

## 3. 飲食業関連事業所においては、「HACCPに沿った衛生管理」の制度化に伴う、営業者としての実施体制を整備します。

【共通する実施手順の順守を図ります。】

- ① 「一般的な衛生管理」及び「HACCPに沿った衛生管理」に関する基準に基づき衛生管理計画を作成し、従業員に周知徹底を図る。
- ② 必要に応じて、清掃・洗浄・消毒や食品の取り扱い等について具体的な方法を定めた手順書を作成する。
- ③ 衛生管理の実施状況を記録し、保存する。
- ④ 衛生管理計画及び手順書の効果を定期的に(及び工程に変更が生じた際等に)検証し、必要に応じて内容を見直す。

【衛生管理計画担当者を事業所毎に指名します。】

## 4. 事業所再編を仕上げ、地域社会や市民との参加と協働の機会の拡充に取り組みます。

この間、最重点課題として取り組んできた「やまぼうし平山台」の事業執行体制の再編成の仕上げを現場の意見を受け止めつつ進めます。

また、やまぼうしのHPのリニューアルとやまぼうし通信の発行体制の見直しに着手します。

さらに、ミレットロードや社会連帯TOKYO、共同連との事業連携や各種セミナーへの参加の呼びかけを重ねていきます。

以上